（様式３）

# 令和７年度　　学校関係者評価報告書

大阪市立田中小学校　学校協議会

## １　総括についての評価

| |
|---|
| 話し合い活動や ICT の活用、英語の学習について、力を入れて取り組んでいることが分かった。情報化や国際化が進む中で、必要な教育であると考えられる。 |

## ２　年度目標ごとの評価

| |
|---|
| 【年度目標：安全・安心な教育の推進】<br>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85.9%【前年度 85.8%】にする。<br>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76.2%以上【前年度 76.1%】にする。 |
| ➢ 朝の挨拶の様子を見ていると、保護者と離れることができないなど行き渋っている様子の児童￥見られる。いじめなどの明確な理由がない不登校や行き渋りが増えていると感じている。いじめについては、数を減らすよりも早期発見、早期解決をめざすことを大切にしていることは、よいことだと考える。<br>➢ 共働きの家庭が多くなり、家庭の多忙化が進んでいると感じる。保護者の子育てにかかわる姿勢にも温度差が大きく、自己肯定感を高めることが難しくなってきているのではないかと考えている。 |
| 【年度目標：未来を切り拓く学力・体力の向上】<br>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を前年度以上【前年度 42.8%】にする。<br>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度以上【前年度 70.8%】にする。 |
| ➢ 話し合い活動を活発にするために、解決方法や自分の考えをペアで話し合う時間、グループで話し合う時間を取り入れることで、伝える力や聞く力を高めようとしていることがよく分かった。<br>➢ テストの結果だけを見るとよくない部分もあるが、アンケート結果では授業が分かると答える率が高く、授業の内容が楽しいことがうかがえる。また、日々の授業も落ち着いた雰囲気で学習ができていると感じている。大人のかかわりの多さはこの地域の特徴であり、学力テストの結果だけでは見えない子どもの力があると感じた。 |

| |
|---|
| ○授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。<br>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Ｉを満たす教職員の割合を前年度以上【前年度 68.2%】にする。 |
| ➢ ICT の活用は今後必須の力となる。ICT の活用が進んでいることはとても良いことであると考える。また、学習の内容によって、紙（ノート等）の活用がふさわしいものも多いと思うので、すべてを ICT に頼るのではなく、場面に応じた使い分けが必要であると考える。 |

３　今後の学校運営についての意見

| |
|---|
| ・学校の見守り体制について、現在複数の地域団体が曜日によって割り当てを決めているが、曜日による見守り人数に差があると感じている。不審者情報もよく聞くので、何かが起こる前に見守り編成を組みなおすなどして、十分な見守り体制を作ることが必要である。<br>・学年による学力に差が資料によりよくわかった。学年により学力に差があるのは仕方がないので、次年度にそれぞれの学年の学力分布がよくなっていることをめざしてほしい。<br>・学校現場は、ときに保護者の要望や意見に対する対応で苦慮する場面もあると思う。そんな時には、学校協議会や地域の力を使ってもらえればよいと考えている。<br>・次年度の年間行事計画について、暑さ対策や６年生の行事との兼ね合いで、運動会を１週間後ろにず |